

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：82611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16673

研究課題名(和文)自殺・自傷とジェンダー：予防と回復に向けた学際的理論の構築

研究課題名(英文)Suicide and Gender : An interdisciplinary approach to suicide prevention and recovery from trauma

研究代表者

菊池 美名子 (Kikuchi, Minako)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 薬物依存研究部・科研費研究員

研究者番号：80769836

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、(1)ジェンダーに基づく暴力と自殺関連行動(自殺企図、自傷行為等)の関係性、それらを媒介する要因と機序について、社会学、ジェンダー学、医療人類学、発達心理学、生物学的精神医学等の学際的視点より分析を行なった。また、(2)被害当事者らによる自助グループ、メディア発信、アート表象などの社会文化的実践に着目し、医療モデルを超えた予防的介入やケア、回復のあり方について明らかにした。特に、海外研究協力者を迎え日本のマンガ作品における自傷行為の描写について内容分析を実施し、その読者に与える影響および介入の可能性と課題について考察を行なった。研究成果を国内外の学術誌、学会、講演等で発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1)近年、自殺予防研究の学際的検討や融合的研究の必要性が議論され、喫緊の課題とされている。それに対し本研究は、従来の研究では十分に検討されてこなかった自殺関連行動におけるジェンダーやセクシュアリティの影響等、学際的知見を有機的に統合した理論を示し、女性や若年層の自殺対策の拡充に寄与するものである。(2)社会文化的実践に関する研究では、現代の日本社会に深く浸透しメンタルヘルスの問題に大きな影響力を持つマンガ作品に特に着目し、医療モデルを超えた当事者中心のケア・介入に関する研究やその国際比較研究、グラフィック・メディシンという新興の学問分野の進展において、独自の貢献を果たす成果が得られた。

研究成果の概要(英文)：In this study, the discussion centered on two components. Firstly, the factors and mechanisms mediating the relationship between gender-based violence and suicide-related behavior were investigated from the interdisciplinary perspective of sociology, gender studies, medical anthropology, developmental psychology, and biological psychiatry. Secondly, an interdisciplinary approach to intervention, care, and recovery from trauma was explored, focusing on the cultural practices on recovery from gender-based violence, including those done by survivors themselves: running self-help groups, sharing stories through media and creating artworks. Particularly, with overseas research collaborator, a content analysis of Japanese manga was conducted to examine the depiction of self-injury and its impact on readers, and to consider the possibilities of intervention. These research findings were published and presented through internal and international academic journals, conferences, and lectures.

研究分野：総合人文社会

キーワード：自殺 自傷行為 ジェンダー ト라우マ 文化 メディア グラフィック・メディシン マンガ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の自殺死亡者数は、平成 10 年から 14 年間連続で年間 3 万人を超える状態が続き、深刻な社会問題となっている。こうした現状をふまえ、平成 18 年 6 月には自殺対策基本法が成立し、同年 10 月に施行されるに至った。この基本法制定以後の行政主導による日本の自殺研究とそれを基にした対策が一定の効果を収めたこともあり、平成 24 年より自殺死亡者数は減少傾向に転じた。このため、WHO (世界保健機関) を含め、国外からも日本の総合的な自殺対策への関心が高まっている。

一方、これまでの自殺研究・対策は中高年男性の自殺を想定したものが中心であり、日本の女性の自殺死亡率は、国際的に見て極めて高い状態が続いている。また、若年層の自殺死亡率は上昇傾向にある。これらの背景として、性暴力やドメスティック・バイオレンス、性的マイノリティへの抑圧など、ジェンダーやセクシュアリティに基づく暴力の影響が諸外国の研究から明らかにされつつあるが、日本の自殺研究および対策において、そうした視点からの取組みは端緒にすぎたばかりである。また、日本の自殺死亡統計を見てみると、自殺死亡者の職業や自殺の原因・動機、自殺未遂歴の有無等において著しいジェンダー差があるが、その背景要因の分析は進んでおらず、特に本質主義的な視点を相対化した理論の構築はほとんど試みられていない。

2. 研究の目的

こうした背景をふまえ、以下の 2 点を研究目的として設定し、研究を実施した。

(1) ジェンダーやセクシュアリティに基づく暴力が自殺関連行動(自殺企図、自傷行為等)に及ぼす影響について、その実態を社会学、ジェンダー学、医療人類学、発達心理学、生物学的精神医学等の学際的視点より明らかにし、総合的理論を構築すること。

(2) 暴力被害当事者らによる自助グループや当事者研究、メディア発信、アート表象などの社会文化的実践に着目し、医療モデルを超えた予防的介入やケア、回復のあり方について明らかにすること。

3. 研究の方法

研究代表者(社会学)、連携研究者(精神科医師)、海外研究協力者(メディア・表象分析)をコアメンバーとし、年間テーマを以下の通り定め、各年度年間テーマを中心として研究を実施した。

<平成 28 年度>自殺関連行動におけるジェンダー・セクシュアリティ理論の射程

<平成 29 年度>性的虐待の既往とトラウマ-アタッチメント問題

<平成 30 年度>性的マイノリティと自殺関連行動

<平成 31 年度>サバイバル文化：自殺対策のオルタナティブ

(1) 「2. 研究の目的」(1)に関して、トラウマ臨床等の専門家と連携し、臨床実践の経過をみて分析を進めたほか、年間テーマに関する国内外の関連文献整理とオーバービュー、共同研究会議における討議、理論的検討を行なった。

(2) 「2. 研究の目的」(2)に関して、暴力被害当事者による活動や、自殺関連行動とその予防、トラウマからの回復やケアに関わる社会文化的実践について、資料収集と分析、フィールドワーク、共同研究会議における討議、理論的検討を行なった。特に日本国内のマンガ作品における自傷行為の描写と読者への影響に着目し、内容分析を実施した。

4. 研究成果

本研究は、「2. 研究の目的」に記した相互に関連する二つの研究調査を柱としている。そのそれぞれについて、以下のような研究成果が得られた。

(1) ジェンダーやセクシュアリティに基づく暴力と自殺関連行動(自殺企図、自傷行為等)の関係性、それらを媒介する要因と機序について：

文献研究では、欧米の先行研究を中心に文献を収集・整理し、特に女性の自殺とジェンダー、ジェンダーやセクシュアリティに基づく暴力と自殺関連行動の関係性、及び同テーマに関連した神経生理学、脳科学やエビジェネティクス等における最新の知見についてレビューを行なった。

女性の場合、自殺の危険因子として、摂食障害等のアディクション²⁰⁾、家族問題(親子関係¹⁵⁾、空の巣症候群と孤独感²⁾¹⁵⁾、家族内の不和¹⁷⁾)及びリプロダクティブヘルス(中絶・流産経験³⁾⁶⁾¹⁴⁾、不妊¹¹⁾)、ジェンダーに基づく暴力及び小児期逆境体験 adverse childhood experiences: ACEs(幼少期の性的・身体的虐待⁴⁾、18歳未満の両親の離婚や再婚¹²⁾、ドメスティック・バイオレンス⁴⁾)が関わっていた。

性的虐待やドメスティック・バイオレンス、家庭内における性暴力など、ジェンダーやセクシュアリティに基づく暴力は、家庭内の不可視化された逃げられない状況の中で親密な対人関係において長期にわたり繰り返されることが多い。そうした特殊な状況下では、加害者や状況への

順応の結果、アタッチメント障害、解離症状、不安定な対人関係、危険な性行動、アディクション、情動の自己統制困難、自己イメージや世界観の変容、人格変化など複雑な反応がおこりやすいことが知られている⁷⁾。また、その結果としての性的「逸脱」等の行動は、更なる搾取や経済困窮等の生きづらさをもたらす。このような様々な要因が重なり自殺関連行動に至る機制を、トラウマ学、生物学的精神医学、発達心理学の他に、ジェンダー学におけるエイジェンシーの理論、複合的アイデンティティ、親密圏の議論と接合しながら分析を行なった。また、ジェンダーに基づく暴力と、女性の自殺リスクを高める他の因子との関係性についても考察した。

また、性的マイノリティと自殺関連行動、その他のマイノリティと自殺関連行動、経済的貧困・社会的排除と自殺関連行動についても文献のレビューを実施した。近年の国内外における定量調査では、性的マイノリティの自殺関連行動経験率、自殺リスクの高さが明らかになっている⁵⁾⁸⁾¹⁰⁾¹⁶⁾¹⁸⁾²⁰⁾。こうした調査をふまえ、性的マイノリティの自殺関連行動が、性的マイノリティであることに関連するいじめ等のトラウマ経験と PTSD や複雑性 PTSD といった狭義のトラウマ反応を媒介とした結果なのか、あるいは被差別体験や貧困など、生存権や自尊感情が持続的に掘り崩されるような体験が自殺関連行動に与える影響と同様の機制によるものなのかといった論点について、Terr¹⁹⁾の型トラウマ概念等を用いつつ、学際的に考察を行った。

また、性被害当事者のトラウマ臨床、依存症臨床、解離とアタッチメントなどを専門とする臨床家と共に理論的討議及び事例の検討を行い、神経生理学、脳科学やエピジェネティクス等における最新の知見と、ジェンダーや社会科学の視点から、上記の分析や考察について検討を行なった。

上記の結果について、論文執筆、学会発表、講演等により成果の発信・社会還元に努めた。また、当初の計画を拡大させ、半構造化面接による日本の女性の自殺実態とその精神保健的・社会的背景と特徴の解明を目的とした他研究プロジェクトに研究協力者として関わり、分析及びジェンダー・センシティブな質問紙への改訂過程において自殺の危険因子及び保護因子の社会文化的側面や、ジェンダー、セクシュアリティの観点からの提言を行ったが、その際に本調査結果を基礎資料として用いた。

(2) 社会文化的実践による自殺関連行動への予防的介入やトラウマからの回復のあり方について：

同テーマに関連した社会文化的実践について、ナラティブ・ベイスト・メディスン、対話、リフレクション、トラウマの表象と変容をキーワードに対象を限定し、資料収集、フィールドワークを行なった。

特に、ウェブサイトや展示会による男性性被害の証言プロジェクト Bristlecone project (ブリッスルコーン・プロジェクト)、近親姦虐待被害の当事者たちによる自助グループとそのインターネット配信等による SIAb.PROJECT (シアブ・プロジェクト)、自傷行為を取り扱った日本国内のマンガ作品の表象に着目し、性暴力などによる傷つきをめぐる「声の政治」と証言、表象が、性暴力やジェンダー、セクシュアリティをめぐる既存の言説空間、被害状況、当事者の回復状況にもたらす変容とその射程について考察を行なった。成果を論考として発表した。

また、自傷行為のマンガ作品の分析については、初年度よりメディア・表象分析、ナラティブ・ベイスト・メディスンを専門とする海外研究協力者との共同研究体制が構築され当初の計画を超えた進捗がみられたため、4年の研究期間を通して以下のような研究を実施した。

日本国内のマンガ作品における自傷行為の描写とその読者への影響に関する国際共同研究を実施した。共同研究会議を開き、日本と北米の当該研究状況についての情報、文献の共有を行った。分担して関連文献及び資料の収集・整理を行なった。2000年～2017年に出版された自傷行為の描写が含まれる日本のマンガ15作品18キャラクター40シーンについて、キャラクターの属性、自傷行為の主観的機能、自傷に先立つエピソード及び自傷による結果に着目して内容分析を実施した。社会文化規範の再生産や再考/攪乱の可能性と、その少女マンガと青年マンガにおける差異、こうした作品が読み手としての自傷行為当事者に与える影響や介入の可能性と課題について、考察を行なった。本調査のパイロット・スタディの結果を国際会議で報告したほか、パイロット・スタディの結果を踏まえた内容分析の結果を国際学術誌にて発表した。

マンガ作品は、現代の日本社会に深く浸透し、若い読者に「生きていくための教科書」を提供すると考えられており¹³⁾、マンガの持つメンタルヘルスの問題に対する影響力を過小評価することはできない。本研究は、マンガという媒体が自傷行為の主観的経験の解釈にいかにかに用いられるかを明らかにしたことによって、グラフィック・メディスンという新興の研究分野²¹⁾に独自の貢献を果たすとともに、国外の研究者に対し日本における自傷行為の文化的解釈を示し、国際比較研究の可能性を提示するものである。マンガを含む日本のメディアの国際市場における認知度が高まっていることをふまえると⁹⁾、本研究を進展させる形で共同研究をさらに進展させ、ナラティブ・ベイスト・メディスンの視点から精神医療モデルを超えた自傷当事者中心のケア・介入のあり方を提言し、メンタルヘルスの問題を抱える読者や自傷行為当事者の支援の裾野を広げていくことが望まれる。

最後に、研究期間中に収集された自殺関連行動とその予防的介入、ケアに関する社会文化的実践についての記録の整理を行い、同テーマについて連携研究者、研究協力者らと共同研究会議にて理論的討議を行った。討議及び上記調査の結果をふまえ、そうした実践を担う文化的総体を「サバイバル文化」として概念化し、その文化的意義について検討した。

<引用文献>

- 1) American Psychiatric Association. Diagnostic and statistical manual of mental disorders.4th ed. Washington D.C.: American Psychiatric Association.1994.
- 2) Chang CM, Liao SC, Chiang HC, et al. Gender differences in healthcare service utilization 1 year before suicide: national record linkage study. *Br J Psychiatry*. 2009; 195:459-60.
- 3) Coleman PK. Abortion and mental health: quantitative synthesis and analysis of research published 1995-2009. *Br J Psychiatry*. 2011; 199(3):180-186.
- 4) Devries KM, Seguin M. Violence against Women and Suicidality: Does Violence Cause Suicidal Behavior? *Key Issues Ment Health*.2013; 178:148-158.
- 5) Fraser G, Wilson M, Garisch JA, Robinson et al. Non-Suicidal Self-Injury, Sexuality Concerns, and Emotion Regulation among Sexually Diverse Adolescents: A Multiple Mediation Analysis. *Archives of suicide research : official journal of the International Academy for Suicide Research*.2018; 22(3):432-452.
- 6) Gissler M, Hemminki E, Lönnqvist J. Suicides after pregnancy in Finland, 1987-94: register linkage study. *BMJ*. 1996; 313(7070):1431-1434.
- 7) Herman J. *Trauma and Recovery: The Aftermath of Violence - from Domestic Abuse to Political Terror*. New York: Basic Books.1992.
- 8) Hidaka Y, Operario D, Takenaka M, et al. Attempted suicide and associated risk factors among youth in urban Japan. *Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol*. 2008; 43(9):752-7.
- 9) Ito M. Mobilizing the Imagination in Everyday Play: The Case of Japanese Media Mixes. In *Mashup cultures*. edited by Stefan Sonvilla-Weiss, Heidelberg: Springer, 2010:79-97.
- 10) Jackman K, Honig J, Bockting W. Nonsuicidal self-injury among lesbian, gay, bisexual and transgender populations: An integrative review. *Journal of Clinical Nursing*. 2016;25.
- 11) Kjaer TK, Jensen A, Dalton SO, et al. Suicide in Danish women evaluated for fertility problems. *Hum Reprod*. 2011; 26(9):2401-2407.
- 12) Lizardi D, Thompson R, Keyes K, Hasin D. Parental divorce, parental depression and gender differences in adult suicide attempt in offspring. *J Nerv Ment Dis*. 2009; 197:899-904.
- 13) Masuda N. Shojo Manga and Its Acceptance: What is the Power of Shojo manga? In *International Perspectives on Shojo and Shojo Manga: The Influence of Girl Culture*. edited by Masami Toku, New York: Routledge, 2015:23-31.
- 14) Mota NP, Burnett M, Sareen J. Associations between abortion, mental disorders, and suicidal behaviour in a nationally representative sample. *Can J Psychiatry*. 2010; 55(4):239-247.
- 15) Narishige R, Kawashima Y, Otaka Y, et al. Gender differences in suicide attempters: A retrospective study of precipitating factors for suicide attempts at a critical emergency unit in Japan. *BMC Psychiatry* 2014; 14: 144.
- 16) Power E, Coughlan H, Clarke M, et al. Nonsuicidal self-injury, suicidal thoughts and suicide attempts among sexual minority youth in Ireland during their emerging adult years. *Early Intervention in Psychiatry*. 2016;10(5):441-5.
- 17) Rubenowitz E, Waern M, Wilhelmson K, Allebeck P. Life events and psychosocial factors in elderly suicides--a case-control study. *Psychol Med* 2001; 31:1193-1202.
- 18) Taliaferro L, Muehlenkamp JJ. Nonsuicidal Self-Injury and Suicidality Among Sexual Minority Youth: Risk Factors and Protective Connectedness Factors. *Academic Pediatrics*. 2017;17:715-722.
- 19) Terr LC. Childhood traumas: An outline and overview. *Am J Psychiatry*. 1991; 148:10-19.
- 20) Tsypes A, Lane R, Paul E, Whitlock J. Non-suicidal self-injury and suicidal thoughts and behaviors in heterosexual and sexual minority young adults. *Comprehensive Psychiatry*. 2016; 65:32-43
- 21) Williams I. Graphic medicine: Comics as Medical Narrative. *Medical Humanities*. 2012; 38(1); 21-27.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yukari Seko, Minako Kikuchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Self-Injury in Japanese Manga: A Content Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Medical Humanities	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1007/s10912-019-09602-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 菊池 美名子	4. 巻 20巻1号
2. 論文標題 心的外傷後成長(Post-traumatic Growth: PTG) 変容の先に待つもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菊池 美名子	4. 巻 19巻1号
2. 論文標題 傷ついた心・傷つけられた身体 自傷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 635-640
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菊池 美名子	4. 巻 46巻11号
2. 論文標題 可視化と語りによる〈変容〉の射程 男性性被害および近親姦虐待被害当事者の証言プロジェクトから	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 142-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池 美名子	4. 巻 45巻15号
2. 論文標題 支援/被支援を編みなおす 感染、あるいは厄払い	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 195-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池 美名子、宮地 尚子	4. 巻 vol.7
2. 論文標題 性的な傷つきを語りうる「場」を求めて 「聞こえない」と「聞こえすぎる」のあいだで起きていること	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 支援	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manami Kodaka, Toshihiko Matsumoto, Michiko Takai, Takashi Yamauchi, Shizuka Kawamoto, Minako Kikuchi, Hisateru Tachimori, Yotaro Katsumata, Norihito Shirakawa, Tadashi Takeshima	4. 巻 27
2. 論文標題 Exploring suicide risk factors among Japanese individuals: The largest case-control psychological autopsy study in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 123-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2017.02.029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、菊池 美名子	4. 巻 16巻1号
2. 論文標題 領域を越えて、トラウマを耕す	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 こころと文化	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、菊池 美名子、松村 美穂	4. 巻 16巻5号
2. 論文標題 人という毒、人という薬	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 535-539
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 DV、性暴力とトラウマ
3. 学会等名 DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修講座2019 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤 あゆみ、大嶋 栄子、上岡 陽江、加茂 登志子、菊池 美名子、伴 恵理子、宮地 尚子、森田 展彰、山田 幸子、嶋根 卓也、松本 俊彦
2. 発表標題 薬物問題を抱えた女性にとって必要な治療や支援とは
3. 学会等名 2019年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 DV、性暴力とトラウマ
3. 学会等名 DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修講座2018 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 DV、性暴力とトラウマ
3. 学会等名 DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修講座2017（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 性被害への支援：学際的視点から考える性被害当事者の心の傷と回復
3. 学会等名 全国被害者支援ネットワーク平成29年度秋期全国研修会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kodaka Manami、Matsumoto Toshihiko、Takai Michiko、Yamauchi Takashi、Kawamoto Shizuka、Kikuchi Minako、Tachimori Hisateru、Katsumata Yotaro、Shirakawa Norihito、Takeshima Tadashi
2. 発表標題 Suicide risk among individuals who verbally express their own death: A case-control psychological autopsy study in Japan
3. 学会等名 The 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 DV、性暴力とトラウマ
3. 学会等名 DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修講座2016（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 「生きづらさ」のそばにたたずむ～地域の「支える力」「見守る力」を高めるために～
3. 学会等名 平成28年度ふじみ野市自殺予防対策事業民生委員・児童委員向け自殺ゲートキーパー養成研修（第一地区）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 「生きづらさ」のそばにたたずむ～地域の「支える力」「見守る力」を高めるために～
3. 学会等名 平成28年度ふじみ野市自殺予防対策事業民生委員・児童委員向け自殺ゲートキーパー養成研修（第二地区）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊池 美名子
2. 発表標題 「生きづらさ」のそばにたたずむ～地域の「支える力」「見守る力」を高めるために～
3. 学会等名 平成28年度ふじみ野市自殺予防対策事業民生委員・児童委員向け自殺ゲートキーパー養成研修（第三地区）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yukari Seko, Minako Kikuchi
2. 発表標題 Non-Suicidal Self-Injury in Japanese Manga Culture: A Preliminary Analysis
3. 学会等名 The 66th Annual Conference of the International Communication Association (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Manami Kodaka, Toshihiko Matsumoto, Michiko Takai, Takashi Yamauchi, Shizuka Kawamoto, Minako Kikuchi, Yotaro Katsumata, Norihito Shirakawa, Tadashi Takeshima
2. 発表標題 Risk factors of female suicides: A case-control psychological autopsy study in Japan
3. 学会等名 The 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 指宿 信(編)、石塚 伸一、淵野 貴生、佐伯 昌彦、番 敦子、宮地 尚子、菊池 美名子、田村 正博、後藤 弘子、杉田 聡、平山 真理、安田 裕子、坂上 香、廣井 亮一、中村 正、鈴木 伸元	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320(88-108)
3. 書名 シリーズ刑事司法を考える第4巻：犯罪被害者と刑事司法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	世古 有佳里 (SEKO YUKARI)		
連携研究者	宮地 尚子 (MIYAJI NAOKO) (60261054)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	